

「すべてが完了した」 ～あなたはどのように完了させますか？～

ヨハネ 19：28-30

今日はイースター、イエス様が十字架で死なれ復活されたことを祝う日です。このイエス様が架かられた十字架ですが、十字架は政治犯などの重罪な人を処刑するためのものでした。世の中ではこの死刑の道具が胸につける大切なものとなっています。しかしこれは十字架に意味があるのではなく、そこにかかられ死なれたイエス様に意味があることを理解していなければいけません。

私たちの人生は見方を変えると違うものが見えてきますが、こうだと思ひ込むとそうにしか見えなくなってしまうだまし絵のようなものだと思いますか？それは今まで生きてきた情報の中で自分が正しいと思っていたことがいつの間にか自分の常識、当たり前になるからであり、周りと比較することで良し悪しを判断する相対的価値観を持つようになるからです。しかし、私たちは教会に来るようになり、自分にとってこれが正しいと思っていたことが次々と違うことに気付くようになりました。私たちが見て行く先を人ではなく神様に向けたから、今までとは違うものが見えてきたのです。私たちは生きていく中で、後悔したり不安になったり、何をしてもうまくいかなかったりすることがあります。そのとき私たちはそれを人のせいにして、自分をダメと思ったりします。しかしそのような時、私たちが本当にみなければいけないものはなんなのでしょうか。私たちはいつの間にか本来正しいと思うことを曲がってとらえてしまうようになり、素直に受け取ることができなくなってしまいます。そうすると自分の人生の目的を忘れ、こうなりたいという希望ではなく、将来困らないためになにかをやるようになります。あなたにとってそれが本来の生きる目的ですか？スタンダードな人生、いつも人ばかりみていく人生。それでいいのでしょうか。その答えを今日、受け取っていきましょう。

2000余年前、イエス様は十字架の道に進んでいかれました。メルギブソンはパッションという映画でイエス様の姿を残しました。鉛のくいが先についた鞭で何度打たれても彼は耐えて立ち上がりました。普通の人なら痛みを耐えられず没薬を混ぜたぶどう酒を飲んで痛みを和らげようとするところを、彼は飲まず痛みを全てその身に引き受け十字架につかれました。それは誰のため、何のためだったのでしょうか。イエス様は十字架に向かった理由はここにあります。

①御父へのとりなしの祈り（自分の幸せを奪うものを排除しようとしてしまう、あなたの人生に向き合うことができるようになるための犠牲となられました） ②イエスの約束（見方を変え自分の問題点をみるならばイエス様と一緒にいることができるようになります） ③思いやり（イエス様が十字架に従い着いて行った母マリヤやマグダラのマリヤは、イエス様の言葉によって生きる目的や希望を与えられ人生を変えられました） ④神に見捨てられたことば（私たちの心の中にもし神様がいたならきっと多くの人が神様の前に謝らなければいけないくらい悪いことをたくさんしてきているのではないのでしょうか。しかしそんな私たちのために、神様から断絶された言葉を発することでその痛みをイエス様が一人で背負われました） ⑤死の苦しみのことば（「私は渇く」とイエス様が発したこの「渇く」という言葉は私たちの人生の失望、落胆を意味しています。その痛み悲しみをイエス様は私たちの代わりに飲まれました） ⑥完成のことば ⑦父なる神にゆだねることば（聖書の預言が成就するためにイエス様は「完了した」と宣言し、「我が霊を御手にゆだねます」と言って天に帰られました）

そしてイエス様は十字架にかかり死なれて後3日経って復活されました。その日曜日がイースターです。そしてイエス様が生まれる前（B.C.）と後（A.D.）では暦が大きく変わり、日曜日の朝が週の始まりとなり、神様の御前に出て休みを得て1週間を過ごすこと、そして次の週、神様に感謝をもって集うようになりました。これはイエス様が生まれてからの奇蹟といえます。

神様は私たちの人生を全て益としようとされています（ロマ8：26-28）。私たちは弱い（＝結果を生み出す能力がない者）ですが、イエス様はそんな弱い私たちが神様に向き合い、最期「完了した」といえる人生に変えられるために十字架にかかられ、自ら完了を宣言されました。確かに私たちの日々は後悔の連続です。しかし神様に会って完了した人生を見た私たちは、一日一日を大事に生きるようになり、ものの見方を変えていくことができます。あなたは今、何をしていますか。何を目的として生きていますか。このことを考えないといけません。そうしなければ、実を残すことができず後悔ばかりの人生になってしまうからです。神様と共に歩み、自分のために大切な隣人を利用するような人生ではなく、隣人が喜ぶ姿を自分の喜びとする人生に変えていきましょう。そうすれば神様を信じた私たちの人生は人とは違うものを持ち、弱いものでも強いといえる、見えないものでも見えるといえる、貧しいものでも豊かだといえるようになります。失敗してもくじけず、倒れても起き上がれないことがないのが神様のなされた御業です。

ですから今日、**1. イエス様はあなたを救い完了させるために十字架に！！**かかられたことを覚えて人生を歩みましょう。私たちの人生はいつ何が起きるか分かりませんし、いつ終わるかも分かりません。しかし私たちはまだ見ぬ未来ではなく、なるべくしてなる将来をみることができます。ですからその人生をダメにする「まあ」とか「どうせ」とかいうことばがでないよう、その日その日なすべきことをしていき、あなたの人生を完了させましょう。イエス様が十字架にかかったのは、結果を生み出すことのできないあなたの人生に完結させるためなのですから。**2. 避雷針のもとへ** スポルジョン牧師はキリストの十字架を避雷針と表現しました。最近の雷はどこに落ちるか予測が難しいといわれますが、そのような私たちが突然襲ってくる不安、恐れ、痛み、悲しみからイエス様は守ってください。私たちが歩けなくならないようにくびきを負ってください。それによって私たちは倒れても起き上がり、どのように生きたらいいのかを示されるのです。私たちは倒れてはいけません。起き上がって避雷針のもとに行くのです。もし今、神様から遠く離れてしまっているなら神様のもとへ帰りましょう。**3. 負うべき十字架を負いましょう。**あなたは今どんな十字架を負っていますか。自分の人生の不安や重荷、誘惑、人や自分の痛み悲しみ…これらを背負ってしまい、神様が示してくださっている自分が背負うべき十字架を背負えなくなっていますか。そのことで疲れてしまっていますか。もしそうならば、今日その重荷をおろし、完了させる神様の十字架を背負いましょう。それはイエス様の歴史を引き継ぐことです。ヨハネ15：16に『あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり…』とありますが、これが完了させるということです。

ですから私たちは、神様の犠牲の愛を忘れず、あなたに与えられている人生を完了させるために、あなたに関わる全ての人を幸せにする力を引き継ぎ、イエス様の歴史を共につくり続けるヒストリーメーカーとなりましょう。（要約者：平澤 瞳）